

## コロナ禍で見た子育て世代包括支援センター

気仙沼市保健福祉部健康増進課（子育て世代包括支援センター）

看護師 熊谷 由紀子

気仙沼市では、平成28年10月に妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援ができるよう「気仙沼市子育て世代包括支援センター すこやか」（以下センター）を市民健康管理センター「すこやか」内に開設しました。センターでは、子育て世代が安心して楽しく子育てができるよう、専門支援員として看護師と保育士がセンター業務を行っています。また、本吉保健福祉センター「いこい」と唐桑総合支所にも同様の相談窓口を設置し対応しています。

センターの主たる業務は、妊娠届出時の妊婦面接をはじめ、妊娠期や子育てについての困りごとなどの相談業務となっています。センターでは、利用者の相談に寄り添い、共感し助言できるよう努めています。また、妊娠期から子育て期までの母子保健事業や子育て支援事業・サービスの流れについての一覧表を活用し、一人ひとりに合った情報提供をしています。妊娠期からの支援で重要となる妊婦面接に関しては産科医療機関の協力もあり、妊娠届はセンターへと認知され、すべての妊婦に対し母子健康手帳交付と併せ面接を行うことができ、ほぼ全員とつながりが持てるようになりました。また、妊婦面接時からサポートが必要な方に対しては、支援票を立て保健師、医療機関との情報共有や連携により、早期支援へとつながっています。開設当初から、月平均の相談件数は50件前後となっており、来所される方からも「ゆっくり話を聞いてもらえ安心した。」「気仙沼市の子育て支援事業がこんなに充実しているとは知らなかった。」などのお声をいただき、次につながる支援ができるよう心掛けています。相談業務の他、健康増進課とともに、妊婦とその家族を対象とした「パパママ教室」、妊婦と産後のママとそのお子さん（生後2～6か月）を対象とした「先輩ママとの交流会」の開催、子ども家庭課とともに、就学前のお子さんとその家族を対象とした「おでかけ児童館」、中高生を対象とした「中高生ライフデザインセミナー」への協力をするなど他部署とも連携しながら運営しています。また、地域で活動している子育て支援団体やママサークル、児童館のチラシを設置するなど親子で集まれる場の情報提供も行っています。

開設以降、少しずつセンターの認知度も広がってきた中、令和2年から市内においても新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ソーシャルディスタンスや他人との密を避けるなど新しい生活様式を求められるようになりました。センターの事業はもちろん、市内においても各施設における事業の中止、延期を余儀なくされ多くの妊産婦やその家族が健康面や子育てに関する不安、更に地域とのつながりが希薄になったことでの孤立感が大きくなっていったと感じます。感染のリスクを考え来所を控え、電話で相談される方もいました。今までは、顔を見て相談することでお互いに安心していただけことができず、どのような状況で子育てを頑張っているのか気がかりになることもありました。コロナ禍でも子育て世代が安心して子育てができるよう、相談業務はもちろんのこと、各種事業を中止するのではなく、どうすれば密を避け安全に開催できるかをセンターや課内で何度も話し合い、模索しながらセンター業務を継続しました。感染予防対策を講じながら実施した事業の参加者からは、「同じ時期の妊婦さんに関わる機会がないので、ぜひこのような機会を少人数でも開催してもらいたい。」「コロナ禍で開催するかどうかわからなかったが、開催してもらい嬉しかった。」「同月齢のお母さん方と話す機会がなかったので参加して良かった。とても楽しかった。」「自分だけじゃないと分かって安心した。」など、どの事業においても、同じ状況にある者同士が共感しあえる時間を持つことで、張りつめていた気持ちが少しの間解放できていたように思います。感染の不安を感じながらも誰かとつながりたいという思いを強く感じ、事業の必要性を改めて考えさせられる機会となりました。

今後も、各関係機関や地域で子育て支援をしている方々と顔の見える関係を構築し、センター活動を通して、「孤立しない子育て」を支援していきたいと思います。そして、気仙沼市で子育てしたい、気仙沼市で子育てをしてよかったと思ってもらえるよう、これからも安心して相談できる身近な場所であり続けたいと思います。

